

基本方針		資料3	
1 市民・事業者・行政の責務の明確化	基本施策	施策の内容	市民・事業者アンケート（参考）
	①市民・事業者との共創による適正処理の推進 （市民・事業者と協力して行う適正な処理の推進）	・市民団体等の支援（後援、くらし展・環境フェスタ等イベント参加など） ・ポイ捨てごみ清掃活動支援（環境衛生課）	（市民）【問12】行政の取り組むべきことについて → 「市民、事業者、NPOなどとの連携を強化し、地域ぐるみでの環境保全活動を推進する」 最下位4.3% ◆連携の重要性の意識が低いことの証左
	②市民との共創による適正排出の推進 （市民と一緒に取り組む正しい排出の推進）	・出前講座 ・市食品ロス削減マイスター ・市民団体等の支援（後援、くらし展・環境フェスタ等イベント参加など）	（市民）【問9】市民の責務が明確化されたことを知っているか → 「聞いたことはあるが詳しくは知らない」25.7%、「知らなかった」19.8%
	③事業者との共創による廃棄物の抑制及び再利用の推進 （事業者と共に取り組むごみ削減と資源の再利用の推進）	・ふくしまタバスケ ・店頭回収 ・小型家電回収ボックス設置 ・3R&食品ロス削減推進協力事業所、店舗 ・公民こねくと（キエーロセット） ・開封調査 ・不法投棄監視員による地区内巡視 ・出前講座	（市民）【問11】事業者が注力して取り組むべきことは？ → 「適正に分別・保管・処理」（21%）、「資源の再利用・リサイクルに協力」（18%）、 「ごみの発生抑制」（15%）
	④将来を見据えた廃棄物処理体制の構築 （未来に備えたごみ処理の仕組みづくり）	・出前講座 ・市食品ロス削減マイスター ・「わたしたちの福島～福島市のかんきょう～」を活用した環境教育	（市民）【問11】事業者が注力して取り組むべきことは？ → 「適正に分別・保管・処理」（21%）、「資源の再利用・リサイクルに協力」（18%）、 「ごみの発生抑制」（15%） （市民）【問12】行政が注力して取り組むべきことは？ → 「分別・排出ルールを分かりやすく情報提供する」が最多の27%
2 ごみ減量プラス資源化	⑤共通認識に立つための情報共有の推進 （市民・事業者と行政が理解をそろえるための情報提供の推進）	・出前講座 ・各種SNS ・報道機関の活用 ・ごみ分別アプリ「さんあ～る」の提供 ・地区説明会 ・市政だより及び市HPへ毎月のごみ排出量速報値の掲載	（市民）【問13】最もよく利用する行政情報の取得方法について年代問わず、市政だよりの割合高い。 → 「市政だより」（63%）、「ホームページ」（17%）
	①家庭系ごみの減量化・資源化の推進 （家庭ごみの減量とリサイクルの推進）	・生ごみゼロチャレンジ！（キエーロ、ふくしまタバスケなど） ・家庭用剪定枝破砕機貸与事業 ・集団資源回収 ・生ごみ処理容器購入費助成 ・機密文書リサイクル ・ももりんエコポスト ・「さんあ～る」の普及促進 ・出前講座 ・搬入物検査 ・組成分析調査 ・小型家電回収ボックスによる資源物回収 ・資源物の店頭回収の紹介 ・イベント回収	（市民）【問15】ごみ減量につながる取り組みについて → ※「ごみ減量に取り組んでいる」（78%）、「資源化に取り組んでいる」（88%）
	②事業系ごみの減量化・資源化の推進 （事業系ごみの減量とリサイクルの推進）	・ふくしまタバスケ ・3R&食品ロス削減推進協力事業所、店舗 ・資源物の店頭回収の紹介 ・保健所現地調査随行及び食品衛生実務講習会での事業系ごみ適正排出の説明 ・「所報ふくしま」を活用した事業者向けの広報 ・条例改正（開封調査） ・搬入物検査	（事業者）【問9】【問11】殆どが取り組みを行っているが排出量を把握できていない事業者が多い。 → ※ごみ減量・資源化「取組はしていない」（5%） → ※ごみの発生量・種類の把握「把握していない」（64%）、 「把握したいが方法が分からない」（6%）
	③新たな視点によるごみの減量化・資源化の推進 （新たな方法によるごみの減量化とリサイクルの推進）	・生ごみゼロチャレンジ！（キエーロ、ふくしまタバスケなど） ・小型家電回収ボックスによる資源物回収 ・リユースサイトの紹介 ・ごみ散乱防止ネット等購入費助成 ・製品プラスチック資源化実証事業 ・イベント回収 ・早朝パトロール ・ごみ処理有料化の検討 ・会議資料等のペーパーレス化、資源化 ・裏紙利用促進 ・ペットボトル飲料の会議提供廃止化 ・資源物店頭回収の紹介 ・「さんあ～る」の普及促進 ・クリーンガイドブック作成、配布	（市民）【問12】、（事業者）【問8】行政が注力して取り組むべきことについて → 「ごみの発生抑制やリサイクル促進のための制度設計、事業者や市民向けの支援策や助成金の提供、技術支援」（市民12%、事業者17%）
	④ごみの適正排出と分別の徹底による減量化・資源化の推進 （正しいごみの出し方と分別による減量とリサイクルの推進）	・生ごみゼロチャレンジ！（キエーロ・ふくしまタバスケなど） ・小型家電回収ボックスによる資源物回収 ・リユースサイトの紹介 ・ごみ散乱防止ネット等購入費助成 ・製品プラスチック資源化実証事業 ・イベント回収 ・早朝パトロール ・ごみ処理有料化の検討 ・会議資料等のペーパーレス化、資源化 ・裏紙利用促進 ・ペットボトル飲料の会議提供廃止化 ・資源物店頭回収の紹介 ・「さんあ～る」の普及促進 ・クリーンガイドブック作成・配布	（市民）【問6】資源物分別で困っている点、難しい品目はあるか → 「ある」47.9%
3 サーキュラーエコノミーの推進	⑤食品ロス削減の推進及び消費者・事業者が行う取り組みへの支援 （食品ロスを減らす取り組みと消費者や事業者が行う活動を支援）	・エコクッキング ・てまどりの推進 ・「2020運動」の普及啓発 ・フードドライブ ・3R&食品ロス削減推進協力事業所、店舗	（市民）【問38】家庭での食品廃棄の頻度について → 「よくある」（1.7%）「ときどきある」（30.6%）
	①サーキュラーエコノミー（資源循環）の普及啓発 （ごみを減らして資源として活かす考え方を知ってもらう取り組み）	新規	（市民）【問23】CEを知っているか → 「言葉は聞いたことがあるが理解できていない」（17%）、「知らなかった」（70%）
	②ごみ発生抑制の取り組みに対する支援 （ごみを出さないための工夫をサポートする取り組み）	新規	（事業者）【問25】サーキュラーエコノミー（資源循環）を促進するために自治体に求める支援や制度について → 「分別・回収・再資源化のインフラ整備」（28%）、「補助金や税制優遇などの経済的支援」（18%）
	③地域循環型の資源活用・廃棄物削減の促進 （地域で資源を循環させ、ごみの削減を進める）	新規	（市民）【問24】サーキュラーエコノミー（資源循環）の考え方を踏まえ、日常生活の中であなたが実践するごみを出さない取り組みについて → 「行政の資源物分別への協力や地域の資源循環拠点を利用している」（7%）、「バザーやフリーマーケット、リサイクルショップ、リユースサイトを活用し再利用している」（4%） （事業者）【問22】サーキュラーエコノミー（資源循環）で実践している取り組み → 「廃材・副産物の再利用・再資源化」（18%）、「商品や部品の回収・再利用」（16%）
	④製品・資源の循環利用の促進 （製品や資源を循環させる取り組みを進める）	・リユースサイトの紹介 ・もったいない学習会 ・環境フェスタ	（事業者）【問8】行政が最も注力して取り組むべきことは？ → 「市民、事業者、NPOなどとの連携を強化し、地域ぐるみでの環境保全活動を推進する（4%）」
	⑤新たな資源化に取り組む市民団体の支援 （新しい資源化取り組みを行う市民団体を支援）	新規	（市民）【問12】行政が注力して取り組むべきことは？ → 「ごみの発生抑制やリサイクル促進のための制度設計、事業者や市民向けの支援策や助成金の提供、技術支援を行う」（12%）、「市民、事業者、NPOなどとの連携を強化し、地域ぐるみでの環境保全活動を推進する」（4%）

基本方針				資料3
基本方針	基本施策	施策の内容	市民・事業者アンケート（参考）	
4 持続可能なごみ・資源物 処理体制の構築	①処理施設の計画的整備と維持管理の推進 （処理施設を計画的に整備し、しっかり管理する取り組みの推進）	・委託収集 ・充電式電池の拠点回収 ・定期的なメンテナンス（あぶ・あらCC） ・災害発生対策（あぶ・あらCC） ・不適物混入防止 ・新あぶくまCC建設（環境施設整備課） ・長寿命化対策修繕（あらCC）	（市民）【問31】新あぶくまクリーンセンターの建替え工事、処理能力が減少することについて →「知らなかった」（67%）、「聞いたことはあるが詳しくは知らない」（17%） ※災害対応に紐づく設問無し	
	②廃棄物処理のリスク管理とレジリエンスの強化 （ごみ処理の安全対策と災害に強い仕組みづくりの推進）	・搬入物検査	（市民）【問30】充電式電池等が原因となる火災事故でごみ収集ができなくなるケースがあることについて →「知らなかった」（67%）、「聞いたことはあるが詳しくは知らない」（17%）	
	③安全・安心な処理体制の確立 （ごみ処理を安全に、安心して行える体制づくり）	・充電式電池の拠点回収	（市民）【問30】充電式電池等が原因となる火災事故でごみ収集ができなくなるケースがあることについて →「知らなかった」（67%）、「聞いたことはあるが詳しくは知らない」（17%）	
	④効率的・効果的な処理体制の構築 （ごみを効率よく安全に処理するしくみの整備）	・ごみ処理（収集・運搬・処分）の民間委託（あぶ・あらCC） ・（未）ごみ収集運搬のDX化	（市民）【問28】将来の労働力不足により、ごみ収集体制の維持が困難になる可能性があることについて →「知らなかった」（36%）、「聞いたことはあるが詳しくは知らない」（29%）	
	⑤誰もが適正にごみを出せる環境づくりの推進 （みんなが正しくごみを出せる環境を整える取り組み）	・ふれあい訪問収集 ・ごみ散乱防止ネット等購入費助成 ・小型家電回収ボックス ・充電式電池の回収 ・搬入物検査	（市民）【問8】分別にお困りの点や難しいと感じる理由 →「出す場所や時間が限られていて不便」（12%）、「収集の曜日が分からない」（4%）、「体力的・年齢的に運ぶのが難しい」（1%）	
5 最終処分場の延命化	①環境保全に資する適切な管理の徹底 （ごみや資源を適切に扱い、自然を守る活動）	・維持管理状況等公表（あぶCC） ・出前講座 ・副読本「わたしたちの福島」（環境政策課） ・あらCC視察受入れ（リサイクルP）	（市民）【問22】ごみの発生抑制・減量を推進する為に、行政が注力して取り組むべきことについて →「ごみ収集・運搬の体制を整え、安定的かつ効率的に運営する」（18%）、「安定したごみ処理ができるよう安全・環境に配慮した運営の適正管理を行う」（11%）	
	②廃棄物の発生抑制とリサイクルの推進 （ごみを減らして、資源として活かす取り組みの推進）	・出前講座 ・生ごみ処理容器購入費助成 ・食品ロス削減 ・エコクッキング ・資源物分別 ・小型家電回収 ・使用済みはがき、インクカートリッジ回収 ・開封調査 ・集団資源回収 ・おいくら・ジモティー ・剪定枝破碎機貸与 ・ふくしまタバスケ ・てまえどり ・再生品販売（リサイクルP） ・焼却灰資源化（あらCC）	（市民）【問36】最終処分場の延命化のためにごみの減量・資源物のリサイクルが有効な取り組みであることについて →「よく知っている」（8%）、「ある程度知っている」（29%） （事業者）【問16】ごみの減量化・リサイクルに関して、どのような情報が知りたいですか →「ごみを減らすための実践的な取り組み事例」（21%）、「ごみ処理やリサイクルにかかるコスト削減の方法」（10%）	
	③最終処分場の現状に対する市民理解の促進 （ごみの最終処分場について理解を深めてもらう取り組み）	・維持管理状況等公表（あぶCC） ・大館山最終処分場視察受入れ（あぶCC）	（市民）【問33】最終処分場を見学できることを知っているか。実際に見学したことがあるか →「知っているが見学したことがない」（14%）「知らない」（81%）「関心がない」（2%） （市民）【問35】最終処分場が、約15年（令和4年度～令和18年度）で受入可能量に達する計画であることを知っていますか。 →「聞いたことはあるが詳しくは知らない」（23.1%）、「知らなかった」（53.9%）	
	④ごみ減量と分別の徹底 （ごみを減らし、きちんと分けて出す取り組み）	・出前講座 ・資源物分別 ・開封調査 ・集団資源回収 ・ふくしまタバスケ ・てまえどり ・搬入物検査 ・小型家電回収 ・使用済みはがき、インクカートリッジ回収 ・おいくら・ジモティー ・剪定枝破碎機貸与・再生品販売（リサイクルP） ・焼却灰資源化（あらCC）	（市民）【問19】あなたが取り組むごみ資源化の取り組みについて →「資源物、燃やすごみ、埋めるごみ等ルールに沿った分別」（40%）、「資源物（古紙類、繊維類、びん類、缶類）を集団資源回収に出している」（25%） （市民）【問34】最終処分場の主な埋立物は、焼却灰と資源にできない埋めるごみの破砕物等であることについて →「よく知っている」（5%）、「ある程度知っている」（18%）	
	⑤持続可能な最終処分に向けた共通理解の醸成 （最終処分場の将来を考え、みんなで理解を深める活動）	・出前講座・副読本「わたしたちの福島」（環境政策課） ・あらCC視察受入れ（リサイクルP）	（市民）【問33】最終処分場を見学できることを知っているか。実際に見学したことがあるか →「知っているが見学したことがない」（14%）「知らない」（81%）「関心がない」（2%） （市民）【問35】最終処分場が、約15年（令和4年度～令和18年度）で受入可能量に達する計画であることを知っていますか。 →「聞いたことはあるが詳しくは知らない」（23.1%）、「知らなかった」（53.9%）	